

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の議会局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 議会局の取組状況

取 組 ①	子どもアドベンチャーカレッジ2025「議事堂探検！議員を体験！」における アンケートの実施		【政策調査課】
取組内容	「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」と 「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供する 当事業の目的を踏まえ、本企画の内容の充実や見直し に活用するため、アンケートを実施した。		
対 象	小学3～6年生（38人）		
実施時期	令和7年8月5日～6日		
主な意見と 活用方法等	アンケートの結果、「議事堂にまた来たいと思いますか？」という設問に対し、参加した児童の約9割が「ぜひ来たい」と回答した。 また、「議会を見学して学んだこと、気づいたことなどありましたか？また、今後やってみたいことがあれば教えてください。」という設問に対し、「ボタン採決が楽しかった。」という意見が多数寄せられたほか、「普段の日常に議会がとても関わっていることを知れて楽しかった。」、「次は傍聴に来てみたいと思った。」、「議員と話せてよかった。」、「特別応接室にいけてよかった。」、「議長になってみたい。」などの意見があった。 意見をもとに、取組内容の充実を図りつつ、今後とも体験型のプログラムを継続予定。		

3

4 議会局の取組状況

取 組 ②		高校生の市会訪問における意見交換及びアンケートの実施	
		【政策調査課】	
取組内容	議会・議員活動への理解を促すとともに、社会の動きに対して自分の立場で考え政治に参画する力を育み、主権者意識を高めるため、本会議の流れを体験する他、地域課題や日頃感じていること等について市会議員と意見交換する機会を設けた。また、実施後は、本企画の内容の充実や見直しに活用するため、アンケートを実施した。		
対 象	高校生（16人）		
実施時期	令和7年12月23日		
主な意見と活用方法等	市会議員との意見交換では、SNS、高齢化、介護、学食、生徒会活動など、日常生活で感じている課題等についての意見や質問があった。 アンケートでは、「議員の意見や政策についての話がとても印象に残った。」、「声を上げることが社会を少しでも良くするきっかけになるとわかった。」、「議員に意見を伝える機会が思っていたより多いことがわかった。」、「実際の議会を傍聴する機会があれば参加してみたい。」、「発言台で話したことが印象に残った。」、「議員の考えを聞いて改めて議会の大事さを知った。」などの意見があった。 意見をもとに、引き続き本会議場を使用した体験プログラムや議員との意見交換を継続するとともに、取組内容の充実を図る。		

4

4 議会局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	子どもアドベンチャーカレッジ2025「議事堂探検！議員を体験！」におけるアンケートの実施	政策調査課	小学3～6年生 (38人)	令和7年8月5日～6日	アンケートの結果、「議事堂にまた来たいと思いますか？」という設問に対し、参加した児童の約9割が「ぜひ来たい」と回答した。 また、「議会を見学して学んだこと、気づいたことなどはありましたか？また、今後やってみたいことがあれば教えてください。」という設問に対し、「ボタン採決が楽しかった。」という意見が多数寄せられたほか、「普段の日常に議会がとても関わっていることを知れて楽しかった。」、「次は傍聴に来てみたいと思った。」、「議員と話せてよかった。」、「特別応接室にいけてよかった。」、「議長になってみたい。」などの意見があった。 意見をもとに、取組内容の充実を図りつつ、今後とも体験型のプログラムを継続予定。
2	キャリア教育プログラムにおける意見交換及びアンケートの実施	政策調査課	大学生（9人）	令和7年8月26日～27日	市会議員との意見交換では、「市内大学のゼミで共同プロジェクトチームを結成し、自治体との意見交換やフィールドワークを重ね、議会に対して意見発表を行うのはどうか。」など、若者の意見を聞くための取組についてアイデアがあがった。 アンケートでは、「市会議員との意見交換が1番印象に残った（参加者全員）。」、「議員の方とグループワークの発表以外のことについても話したかった。」、「働くイメージが湧き、横浜市役所で働きたいと思った。」などの意見があった。 意見をもとに、実施期間の拡充や取組内容の充実を図りつつ、横浜市役所で働く魅力を感じてもらえるよう、引き続き職員との交流会や議員との意見交換を継続予定。

4 議会局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
3	高校生の市会訪問における意見交換及びアンケートの実施	政策調査課	高校生（16人）	令和7年12月23日	市会議員との意見交換では、SNS、高齢化、介護、学食、生徒会活動など、日常生活で感じている課題等についての意見や質問があった。 アンケートでは、「議員の意見や政策についての話がとても印象に残った。」、「声を上げることが社会を少しでも良くするきっかけになるとわかった。」、「議員に意見を伝える機会が思っていたより多いことがわかった。」、「実際の議会を傍聴する機会があれば参加してみたい。」、「発言台で話したことが印象に残った。」、「議員の考えを聞いて改めて議会の大事さを知った。」などの意見があった。 意見をもとに、引き続き本会議場を使用した体験プログラムや議員との意見交換を継続するとともに、取組内容の充実を図る。